令和３年度　第１回生駒市環境マネジメントシステム推進会議　会議録（要旨）

１　日時　令和４年２月16日（水）　14:00～

２　場所　生駒市役所　２階　201会議室

３　案件
（１）各所属ヒアリング内容についての監査
（２）その他

４　出席者
会　長　矢田千鶴子
副会長　落合史生
委　員　田平厚子　山口昭夫
事務局　領家　誠　地域活力創生部長
武元一真　ＳＤＧｓ推進課長
木口昌幸　ＳＤＧｓ推進課課長補佐
加納　明　ＳＤＧｓ推進課低炭素まちづくり推進係長

５　会議要旨
（１）各所属ヒアリング内容についての監査
事務局より当日資料１「各課へのヒアリング内容」、資料１「環境関連計画に基づく取組状況調査まとめ」、資料２「各課へのヒアリング内容（事務局実施分）」資料３「エコオフィス取組状況調査」資料４「ヒアリングシート」について説明。会議要旨は以下のとおり。

＜各課への監査（ＳＤＧｓ推進課を除く）＞
落合副会長：前年度の監査時では監査する所属が班ごとに割り振られていたが、今回は全体を確認するようになっていたので、資料が膨大で全体像が掴みにくかった。
矢田会長：大変だったが、今回の手法もあると感じた。取組ごとに整理されたために、課ごとに評価することは難しかった。３つの計画の実施状況を確認する必要があり、監査対象も増え、全てを確認することは難しいが、しっかり監査して課題を提起していきたい。
田平委員：ヒアリング内容の結果が継続中となっているが、令和２年度に実施予定だった取組を現在も実施中ということか。
事務局：令和２年度の取組結果は資料１に記載しているため、あわせて確認していただきたい。事務局で実施した各所属へのヒアリングでは、その後の取組状況も含めて聞取りを行った。
田平委員：ヒアリングをした時期は。
事務局：令和３年末頃に実施した。
田平委員：リーディングプロジェクトは、ずっとリーディングプロジェクトとして推進していくのか。他のプロジェクトに整理されたりはしないのか。リーディングプロジェクトのうち、食品ロス削減

については、リーディングプロジェクトとしてふさわしくないように思う。

矢田会長：リーディングプロジェクトとしての食品ロス削減の取組は、フードドライブに限らない広範な取組を想定していたはず。フードドライブを継続しているだけでは発展性がなく、評価できない。

事務局：令和２年度から食品ロス削減協力店制度を運用開始しており、広報面で協力しながら、登録店舗の拡大を図りたいと考えている。また、令和３年 10 月に設立したＳＤＧｓアクションネットワークにも登録店舗が参加しており、団体・事業者間の連携による食品ロス削減の取組が実現するよう促したいと考えている。

矢田会長：複合型コミュニティづくりについては、設定目標が少なく、自治会数が 100 以上あることを考えると、将来普及している展望が見えない。目標件数を増やしてほしい。

落合副会長：全般的に参加者数の実績が少ないと感じる。倍々とまではいかなくても市民に広がっていくトリガーになるような取組ができないか。高齢者のパワーを活用できている実績もあまりないと感じる。また、ＳＤＧｓの活動の中で若い層を巻き込んだ取組はあるのか。

事務局：広く若年層の環境に対する意識を底上げすることは課題と感じている。

矢田会長：30 年前には「環境」というキーワードが斬新だったが、今は違うので工夫が必要。ＳＤＧｓウェディングケーキモデルは、環境が経済と社会のベースになっていることを端的に表している。１つずつの取組内容も大切だが、ＳＤＧｓそのものを市民に知ってもらうことも大切。

矢田会長：生駒市の広報紙では若い人の活躍が目立つし、発想も豊かである。ただし、若年層と高齢者層との橋渡しがなく、高齢者世代が果たしている役割を若年層にバトンタッチしていく必要があると感じる。

落合委員：世代間の橋渡しができたら面白いと思っている。若年層が活動する団体に声がけしようかとも考えている。

田平委員：生駒市の広報を見ていても、イベント等への参加のための申込みが面倒で、市民がいろいろなイベント等に行こうと思わせる工夫をすることも大切である。

　あとは、イベント等で学習できるというだけでなく、参加することによる楽しさや、何かがもらえる、友人ができるなどのメリットを工夫することも必要。資料１の中でそのような内容も読み取れればよかった。

山口委員：市民が何かをしたいと考えたとき、市民活動推進センターららぽーとの登録団体に多くの団体が登録されており、やりたいことは全て見つかるが、横の連携がないと感じる。森林調査の資料が配布されているが、何を目的とした調査で、どのように活用しようとしているのか。森林ボランティアをどのように活用するか考えてほしい。

落合副会長：高山地区に住んでいるが、放置竹林も多く、手入れが行き届いていない。私有地であれば森林の所有者がいるので対策が難しい。生駒市としては、どのような対策を考えているのか。高山地区には同志社大学の学生が里山キャンパスの取組を実施しているが、地域の人にもほとんど知られていない。このような取り組みを何とか広げていけないかと思う。

事務局：生駒市としては、まずは現況を確認し、調査結果を竹林の保全に活用していきたいと考えている。

＜ＳＤＧｓ推進課への監査＞

落合副会長：いこま市民パワーの取組について、市民への電力供給が広がらない要因をどのように考えているか。生駒市として対策は検討しているのか。

事務局：いこま市民パワーでは、令和４年度に自治会が自主的に地域課題の解決するための取組で、脱炭素、資源循環等の推進にもつながる取組の経費を一部補助することを予定している。この事業と併せて自治会集会所や自治会員への供給拡大や、集会所への太陽光発電の設置もあわせて推進したいと考えている。また、このような取組を通じて地域に収益を還元する会社であることが認知されることで、電気料金の安さだけでない価値で訴求できると考えている。

落合副会長：自治会を使うのは良いと思う。

田平委員：ＳＤＧｓについての働きかけは必要。生き方・考え方として学校で教育するような取組を市民に対しても取り組んでほしい。環境活動に使命感を持つような人材を育成してほしい。

矢田会長：ミレニアム世代・ゼット世代といった若年層は、ＳＤＧｓへの関心が高いと感じる。環境を良くすることに支出はいとわないというようなアンケート結果もみられる。

矢田会長：小型モビリティの評価がＣになっていた。こんにちは赤ちゃん事業が実施できていなかったということだろうが、その他の利用促進策も考えてほしい。

田平委員：特定の課だけではなく、市全体で共有できないのか。目に触れる機会を与えてほしい。

落合副会長：環境施設見学会に参加した際に、プラスチックごみが人手で分別されていることにカルチャーショックを受けた。ただし、これまでも多くの人がショックを受けたと思うが、それで終わってしまう。普及させるために、参加者にポイント制やクーポンを出すなど工夫しては。

矢田会長：環境施設見学会は、大切な事業であり、継続すべき。

矢田会長：ＳＤＧｓ推進課としては、きっちりと事業を推進しているという方向で監査結果報告をまとめてよいか。（委員の了解）

（２）その他

事務局：各課の評価シート（資料４）については、２月 24 日（木）までに提出していただきたい。